

令和3年度 青少年教育施設を活用した不登校対策事業
第3回 ふれあいキャンプ 事業報告書

担当：沼野

1 事業概要

- (1) 趣 旨 青少年教育施設において、学校生活に悩みをもつ児童生徒を対象に、学習活動、自然体験活動、集団活動、仲間との交流を図ることで新たな自分に気づき、周囲との関係について学び、自分を見つめ直そうとする機会の提供に資するもの。
- (2) 対 象 不登校の小中高生で、本人の参加意志のある者20名程度
- (3) 実施期日 令和3年10月16日(土)～17日(日)
- (4) 実施場所 ・別府市東山地区公民館〔別府市立東山小中学校内〕
・フォレストアドベンチャー・別府(別府市志高4380-1)
・九重青少年の家(九重町田野204-47)
- (5) 参加者数 44名(児童生徒 12名、保護者・スタッフ等32名)
- (6) スーパーバイザー 大分大学教授 渡辺 亘 氏
- (7) 支援者 大分大学学生16名
- (8) プログラム

10月16日(土)		10月17日(日)	
時刻	活 動 内 容	時刻	活 動 内 容
12:30	受 付	7:00	起床、洗面
13:00	出合いのつどい(東山地区公民館)	8:00	朝 食
14:00	活動1「フォレストアドベンチャー・別府」	9:00	部屋点検
15:30	移動(別府→九重青少年の家)	9:30	活動2 「秋の味覚を満喫しよう」 石焼きイモづくり その他
17:00	夕食	11:00	わくわくタイム(選択活動)
19:00	プラネタリウム 【保護者懇談会 ～20:30】	12:00	昼食
20:15	入 浴	12:40	別れのつどい
21:30	就寝準備	13:00	解散
22:00	就 寝		

①出合いのつどい「アイスブレイキング」(別府市東山地区公民館)

第3回ふれあいキャンプは、香々地青少年の家から離れて実施のため、別府市東山地区公民館をお借りして出合いの会となった。予定より15分遅れての実施となりましたが、みんな明るい表情で参加してくれました。MFの自己紹介は「小さい頃の夢」をテーマに笑いを含めながら親睦を深めてくれました。

終了後は、MFとお話ししながらキャサリンを先頭に歩いてフォレストアドベンチャーへ移動、これからの活動に胸膨らませる参加者でした。



(写真1) 香々地青少年の家 所長あいさつ

②活動1「アスレチックに挑戦」(フォレストアドベンチャー・別府)

参加者12名を4つの班に分けて実施した。参加者は、協力してミッションに挑戦し、楽しんでいった。日頃、部屋で過ごすことが多い参加者であるが、MFと会話をしながらアスレチックに挑戦する事ができた。フォレストアドベンチャー指導員の「楽しかったですか」の問いかけに全員が楽しかったと手を上げる事ができた。



③「プラネタリウム」（九重青少年の家）

九重青少年の家に新しく導入されたプラネタリウムを参加者全員で視聴した。職員の生解説によるうつくしい映像を楽しむことができた。サマーキャンプ参加者は香々地青少年の家のプラネタと比較を楽しむことができたようだ。



④「保護者懇話会」

保護者・施設職員・フリースクール職員7名の参加があった。現在の子どもの様子や悩みが語られ、思いを共有することができた。保護者から転校することによって

⑤「メンタルフレンド会議」

1日の子どもたちの様子や、MFの振り返りの場として設定している。今日1日の子どもの様子や、対応の仕方（子どもとの距離感）、明日の日程など話し合われた。

⑥活動2「秋の味覚を満喫しよう」

子どもたちは時間通りに起床し、食事、部屋点検の後研修室に集合した。班は、家族を基本とし8つのグループで実施をした。石を敷き詰めた鍋に芋を入れてグループ薪割りをし、協力することができた。準備、片付けなどグループで協力することができた。



⑦わくわくタイム

今回わくわくタイムの時間が30分しか取れなかった。部屋でMFとおしゃべりをしたり参加者同士でボードゲームやアスレチックを楽しむなど、自分でやりたいことをMFとできる活動ついて定着している。

⑧別れのつどい（まとめ・振り返り）

集いの前に参加者は、アンケート用紙を使いまとめと振り返りを行った。メンタルフレンドの感想発表、次回の予告を行った。参加者からはMFとの別れを惜しむ声が多く聞かれた。



（9）事業評価

第3回ふれあいキャンプへのアンケート結果（データ対象子ども12名 MF16名）

○参加者評価 プログラムについて

	内容	楽しかった	少し楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
①	フォレストアドベンチャー	11	1	0	0
②	わくわくタイム	12	0	0	0
③	秋の味覚を満喫しよう	12	0	0	0

自分の事について

	内容	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
①	積極的に取り組む事ができた。	9	2	1	0
②	MFと話ができましたか	10	2	0	0
③	キャンプを楽しむことができましたか。	12	0	0	0
④	まわりの力をかりずに活動できましたか。	9	1	2	0

○MF

参加前と後での変化について社会性の変容

	内容	4 (大)	3	2	1 (小)
意欲	活動に最後まで意欲的に取り組んでいた。	1 1	5	1	0
コミュニケーション	MF や仲間に積極的に取り組んでいた。	9	5	1	1
自己肯定感	活動に主体的に取り組んでいた。	8	8	0	0
自立	MF や大人の力を借りずに活動できた。	1 2	2	2	0

3・4の評価/全体の評価

キャンプ前後の社会性の変容 $60/65 = 92.3$

(意欲・コミュニケーション・自己肯定感・自立)

2 成果と課題

(1) 成果

◎ プログラムについて

- すべての活動に参加者全員が楽しかったと答えている。
- フォレストアドベンチャーは、体を動かす活動として普段部屋から出ない子どももいろいろな活動に積極的に挑戦することができた。
- メンタルフレンドは、子どもたちに積極的に話しかけ個別に向きあい、各活動においても意欲的に支援していたため、一人ひとりに細かな対応ができ、最後まで全員がキャンプに取り組むことができた。
- 保護者懇話会は、子どもたちの現在の家庭・学校での様子や保護者の思いを聞く場となっている。参加者の思いを共有し、共に考える有意義な場となっている。
- 「わくわくタイム」は自分の好きな内容でMFと交流できるため、参加者全員が楽しく実施できている。家にこもりがちな不登校の子どもたちの自己決定の場としてこれからも実施していきたい。
- 夕食・朝食・昼食と3回の食事を行った。
- 小学1年生から高校2年生と幅広い年齢層であるが、MFのきめ細かい対応と無理のないプログラムによって違和感なく実施できた。
- MFのアンケートでは、参加前後の子どもたちの変化について回答してもらった。MFのアンケートには、子どもが活動の中で変わったところを意欲・コミュニケーション・自己肯定感・自立の4点で評価してもらった。また、根拠となる場面が記述されている。参加者のそばで気持ちに寄り添いながら活動を共にするMFの存在が参加者の気持ちの変化を促している。

(2) 課題

- 今回、12名の参加があった。新規参加2名であった。ふれあい広場の広報をもっと行わなければならない。
- 香々地青少年の家からでて、フォレストアドベンチャー、九重青少年の家での実施であったため、移動等によりプログラムが詰められていたため「わくわくタイム」の時間確保ができなかった。参加者からわくわくタイムの時間がもっと欲しいとの意見があった。自分の好きなことをMFと一緒にできる時間は参加者にとって楽しい時間であり、確保してあげたい。
- 参加者アンケートでは、すべてのプログラムに対して「楽しかった」と答えているが、自分についてのアンケートでは、意欲、コミュニケーション、自立に関しては厳しい評価をしている。
- MFの参加者への活動支援は子どもの状況によって違う。夜の時間、入浴の時間など、支援のない時間の確保をしてMFの負担の軽減を考えなければならない。